

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 22 年度

事業所番号	2774000992		
法人名	特定非営利活動法人 オリーブの園		
事業所名	グループホームひより		
所在地	大阪府豊中市原田元町2丁目6番26号		
自己評価作成日	平成 23年 1月 10日	評価結果市町村受理日	平成 23年 2月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774000992&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 23年 1月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム内は回想法を取り入れており、全体に昭和の落ち着いたレトロな雰囲気がしますので、新入居の方も直ぐに馴染めています。庭には小さいながらも畑があり、花や植物、動物とのふれあいでリフレッシュ出来ます。グループホームの中でも、医療連携している施設であり、看取りまでを視野に入れた緩和ケアも専門的に行っています。大学の実習施設にもなっており、次世代育成・人材育成にも力を注いでいます。

高齢者福祉を中心に、グループホーム、デイサービス、その他社会ニーズをとらえた女性支援や子育て支援にも活動として取り組んでいる特定非営利活動法人オリーブの園が運営している事業所です。寮を改装したホーム全体は、昭和の落ち着いたレトロな雰囲気を醸し出し、懐かしく落ち着いた空間で安心できます。職員は『「オリーブの園」職員憲章9ヶ条』を共有し実践しています。自立支援を暮らしの中で支え育み共に学ぶ姿勢で、笑顔、談笑の毎日を大切にしています。家族支援にも力を入れ、家族への情報提供も工夫されています。家族から多くの感謝が聞けるのは、管理者以下職員の日常の努力の成果です。庭の畑、動物とのふれあい、利用者自治会の活動等、ひとつ屋根の下での17名は、「ひより」の名前が目指している「心はいつもいいひより」の暮らしを満喫しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	NPO法人オリーブの園の運営するグループホームはケアにあたる職員には職員憲章九ヶ条があり、それに基づき年毎に具体的に共有できる標語を施設内に掲げ、又、憲章は個々に携帯している。	社会福祉概念の変革を理念とし、ふれあい文化の創設をめざしています。『人間と人間社会を見つめ、その空間と時間の歩みをデザインします。』『多様な文化や価値を認めあい、個々の生きるステージを大切にします。』『共生社会の中で自立支援のあり方や、そのプロセスを見つめてゆきます。』という法人理念と職員憲章九ヶ条を職員は共有し実践しています。グループホームでは年毎に標語を掲げており、今年は「常に自分に置き換えて、相手の人生に敬意をはらう時、言葉ひとつが輝くと思うこと」として、ミーティング、会議、研修時の他、日常的に憲章・標語の確認を行っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	年間の餅つきや納涼会、又、ボランティアの方々に地域から来て頂くだけでなく、職員は地域の自治会の旅行等にも参加し、車中で顔の見える関係作りもしている。又、食材や暮らしに関わる事業は殆ど地域で購入する等の交流にも努めている。	自治会に加入し、自治会の社会見学には職員も参加し地域との交流には積極的に取り組んでいます。事業所の行事には地域住民も参加してもらっています。日常の買い物は地域で購入し、交流にも努めています。地域の方が認知症に関する相談をしに、気軽に来訪してくれる関係ができています。大学の実習生を受け入れ、次世代育成にも力を入れています。ホーム内の家具や調度品は寄付の品物が多く、たくさんの応援者に支えられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	自治会のバスツアー等で、認知症に対する知識等について説明する事や運営推進会議においても開催年より20回にわたり、地域の方々に多く出席して頂き、認知症に対しての知識を提供している。又、皆さんが寄れる場として住み開きも計画。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部評価についての結果や評価を報告。ひよりは木造なので昨年は安心や安全を優先して、火災や地震に備える取り組みを行った。スプリンクラー工事、耐火建築基準改善による補修工事等に取り組んだ。	運営推進会議については、市からモデルケースの指定を受けており、市の担当職員をはじめ、地域の各分野の方の参加で開催されています。ホームの活動報告だけではなく、人生のエンディングを自分らしく迎える事を考える研修や、拡大運営推進会議として傷の正しい治し方の講演会など実施しています。開催頻度は3ヵ月毎が現状となっていますが、今後は開催回数を増やせるように検討していく予定です。	会議の内容は市のモデルケースになっており、充実した内容となっていますが、規程では2ヵ月に1回、概ね1年に6回、会議を開催するよう掲げていることもあり、今後は規程により開催することが望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	スプリンクラーや耐震、建築基準改善補修工事に対しては数ヶ月を要す工事であったため、昨年は特に行政と密に連絡を取り、指導のもと行った。	相談ごとは市の担当課に相談し、連携を図っています。外部評価結果も市に提出しています。市の介護相談員の受け入れも行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束をしない事は重要事項説明書でも表明している。人権と倫理に重きを置き、身体拘束をしない学習を促進させており、職員にはパンフレットを配布している。	重要事項説明書に、「身体拘束を行いません」と明記して宣言しています。利用者本人または、他人の生命・身体に対して危険が及ぶことが考えられる時は、速やかに専門的医療機関において専門医のインフォームドコンセントや治療を受けるよう方針を定めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等においても時間をとりわけ、人権や虐待についての学習会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については家族にパンフレットを配布する等を行っているが、必要とされる方には積極的にリーガルサポートやひまわりサポート等を薦め、順調に進んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族が持つ不安要因に対して、こちらからの説明だけでなく、不安に対しては十分に聴く姿勢も大切にし、信頼を築けるよう心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に2回利用者さんの自治会が行われており、職員は希望に添えるように計画し実践している。家族の要望は計画書に反映できるように記入欄を設けている。	利用者の自治会があり、毎月の外出行事や食事のメニュー等は自治会の提案を尊重しています。畑作業がしたいという要望に、倉庫をつぶして畑を作ったり、福祉用具に囲まれて生活したくないとの声で廊下の手すりを竹の手すりに換えたケースがあります。利用者・家族・職員間の情報共有プロセスのシステムが確立し、それに沿って毎月1回はサマリーとして家族に発信しています。家族もホームでの生活に安心していると感謝しています。以前入居していた利用者家族が今でも訪問してくれています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議では各個人の意見が出やすいように工夫しており、QOS委員会として、個人の意見が反映されるシステムがある。	毎日のミーティングや会議で職員の意見や提案を聞いています。また、日々のケアの中で職員が気づいたことは「気づきの記」の用紙に都度記入し、管理者や施設長へ提出しています。研修は、内部・外部研修共に職員が出席できるように配慮しています。職員一人ひとりのレベルに合わせて段階ごとに育成し、リーダーの宿泊訓練も実施しています。職員は成長する機会があることに感謝しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では職員ランクが6段階に分かれており、個々の成長度合いによりランクアップし、給与に反映されるようになっている。又、福利厚生に手厚く、資格取得助成金等も整備されている。外国人が働きやすい環境作りも制度化されつつある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて資格取得を勧め、取得に対する助成金や勤務の配慮をし、内外の研修に積極的に参加させている。法人のランクにより必須研修項目があり、人材を人財に、専門職として自立していけるようなメンター的な取り組みに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	拡大運営推進会議で同業者を呼ぶ機会を作る等、同業者間交流を図る事を積極的に行っており、講演会等もしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に入居時は本人も家族も不安なことが多いと思われ、細やかな声掛けなどを多く行い、慣れて頂く事を第一に計画している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護苦労等に関わり、傾聴する事を主に不安の解消に努め、信頼の構築に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	引越し方法や送迎等、家族にとっては入居する段階での心配事も多く、事前面接や入居直前での打ち合わせ等、個々ニーズに合わせた支援を行うが、特に待機の場所等については、他のサービスを含めた待ち方法を選択できるよう提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑作りや和風料理等、若い人たちが知らない事などを昔とった杵柄で教えてもらいながら、相互のラポール形成の構築は“共に在る”ことの喜びであると捉えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時に家族と本人の関係改善にも介入する場合もあるが、共に本人を支える事を前提に情報交換を行い、在宅への復帰も視野に入れた総合的な方針を打ち出している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会日や時間においても常識的な範囲であれば特に制約していない。グループホームに入居しても以前の馴染みの関係が断ち切れることなく過ごせるように、年賀状書き、又お便り書き等の手伝い等も支援している。	利用者は訪問理美容を利用していますが、希望により馴染みの美容室に通うこと等も支援しています。隣家にある同法人の「街かどデイハウス」では、利用する近隣高齢者とホームの利用者との交流の機会があります。私の暮らし方シートで把握した、一人ひとりの今までの暮らし方を大切にして、馴染みの人や場との関係維持を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	クラブ活動やレクリエーションを通じて仲良くなれる機会の提供や、新入居の場合、自治会長などの助けを通して支援してもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自立され自宅に帰られた時や、死亡退去された家族にも折にふれて必要があれば相談にのり、又、みえられたりお手紙を頂いたりしている。NPOとして社会福祉の一端を担っており、絆やつながりを大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の個々の思いや暮らし方の希望は日々のコミュニケーションの中で、引き出せるような会話に努めている。	利用者一人ひとりの思いや希望等の情報収集については、入居時の事前面接にセンター方式の「私の暮らし方シート」等用いて情報収集しています。日常の関わりの中での気づきや新しい発見は、毎日のミーティングで共有し、また、インデックス形式の個人ファイルに記録し、日々のケアに活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出生地や方言、食事の味付け、習慣等も回想法に活用し、パーソンドセンターケアとして安心して生活できるようにバックヒストリーを収集する事に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人々の強みを活かし弱みをサポートできるように、健康状態を中心にADL、IADLを把握し、セルフケアをアセスメントすると共に、その日・その時の本人の自立度についてのニーズをサポートしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の大まかな方針は、主治医・利用者・家族とのインフォームドコンセントや施設側との話し合いでその方針が決定する。具体的にはその月の成果目標と援助目標、課題分析をあげ現在の問題をアセスメントしながらチームで情報の共有を行い、健康面や生活面、又、認知症の問題解決等の具体策を月々に、又、年間にも繋ぎ、モニタリングを施工して次年度の計画にも繋いでいる。	ホーム独自の「情報共有プロセス」のシステムを確立し、情報収集・計画・情報の提供の3段階に分け、それぞれの書式を作成し、個別のデータに作成しています。年間計画・月計画・日々の計画があり、それぞれの見直しが行われています。計画は利用者にあわせ日々変化していきます。計画は居室担当者がケースミーティングで提案し、了解を得て作成していきます。職員間では、インデックス形式の個人データにより情報の共有を図っています。介護計画書は毎月家族にも送付しています。介護計画書には家族の記入する欄を設け、家族の要望、意見を反映させる仕組みを工夫しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントできるように、記録はS・O・A・P方式とし、電子カルテで情報の共有を図りながら、モニタリングなどで根拠も明確にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ るニーズに対応して、既存のサービスに 捉われない、柔軟な支援やサービスの 多機能化に取り組んでいる	ある時は実習施設となり、又ある時は ホスピスともなり、地域の集会所になっ たり、家族の宿泊所となったりと多機 能であり、柔軟なサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資 源を把握し、本人は心身の力を発揮し ながら安全で豊かな暮らしを楽しむこと ができるよう支援している	ホーム入居後も入居前と変わりなく、 馴染みの美容院に行ったり、教会の礼 拝に参加したり、銭湯に行ったり、校区 の行事にも参加できるよう機会提供し ている。又、若年性認知症等の方の場 合、グループホームに入居しながらデ イサービス利用や作業所等への参加 も個別に計画している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかりつけ医と事 業所の関係を築きながら、適切な医療 を受けられるように支援している	往診専門の医療機関と提携しており、 月2回の定期往診により、居宅療養管 理が出来るように支援している。又、24 時間 365 日いつでも往診可能となっ ている。尚、希望があれば本人のかかり つけ医の受診も支援している。	往診専門の医療機関と医療連携契約 を結び、療養管理を行っています。24 時間365日いつでも往診してもらえる 体制になっています。家族には、医師 から 1 ヶ月の身体状況を記録したサマ リーを送り報告しています。管理者が 看護師ということは、利用者・家族・職 員の安心に繋がっています。本人から の希望があれば、かかりつけの医療 機関を受診しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士は健康上気づいた事を報告し、看護師は医師と受診などの調整を行っている。医療連携ホームとしてホーム内看護師がいるが職員の健康管理を含めて、健康診断等全体の保健・衛生も管理している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	グループホームから病院に対してのサマリーを提供している。又、病院の相談員とも連絡調整している。特に精神科の入院は退院までの間、病院側との連絡調整、情報交換等を密に行い、外泊評価等もモニタリングとして行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針等はホームドクターと家族とのインフォームドコンセントにより定期的に、また必要時適宜行われている。 家族も共に参加できる看取りとなるように援助している。	「看取りに関する指針」を重要事項説明書に明記しています。重度化や終末期に向けた方針は、本人・家族の要望を確認し医師との話し合いをしながら進めていきます。ターミナルケアも実施しています。職員はターミナルケアの実践を通し、「尊厳」を学び、「悔いのない仕事」への自覚を持っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が救命講習を受講し、豊中消防署より市民救命サポーターステーションに認定されている。救急マニュアルも職員各人に渡し、訓練も定期的に行っている。特に食事中的誤嚥についてはトレーニングを重ねている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対しては既に耐震補強やスプリンクラー工事を終え、対策マニュアルを作成している。ホーム内訓練及び自治会の防災訓練等にも参加し地域連携も図っている。	年2回消防署の協力で避難訓練を行っています。緊急時や非常災害時の研修も行っています。地域での訓練にも参加し、地域との協力体制もとれています。職員のほとんどが、「市民救命サポーター」の資格を所持し、緊急時に備えた知識と技能を有しています。スプリンクラーは昨年11月に設置しました。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当法人としてプライバシーポリシーを作成し、ホームページなどでも公開している。人権や倫理に基づいた接遇マナー等の研修も行っている。 特の今年の標語は「常に自分に置き換えて、相手の人生に敬意をはらう時、言葉ひとつが輝くと思うこと」である。	倫理綱領が作成され、職員間で共有できています。「人権」「尊厳」に対する職員の意識は高いものがあります。今年の標語である「常に自分に置き換えて、相手の人生に敬意をはらう時、言葉ひとつが輝くと思うこと」を日常のケアで実践しています。個人情報に関しても、職員は入職時に守秘義務の誓約書を提出しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	家庭的な共同生活の中では遠慮なく自己決定や自己選択が出来る雰囲気があり、自治会等も利用者間で運営されている。その中で活発な意見も出されており、職員は要望により行事計画を行い実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームは共同生活といえども、一人々の生活の場であり、その人の生活リズムを大切に暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみはその方の自尊心を守る大切なものであり、外出時等はTPOに配慮し、美容院に出かけたり、マニキュアや化粧などにも心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感があり、目で見てもきれいで、家庭的な雰囲気の中、利用者さんの力も借りて楽しく食事が出来るコミュニケーションも食の文化性と共に大切にしている。又、生活リハビリとして食器ふき、盛り付け等は利用者さんと一緒にしている。	昼食・夕食は調理のプロが食事を作っています。利用者は食事を楽しみにしており、嬉しそうな表情を浮かべています。献立作りには、利用者が構成する自治会から出た要望を反映させています。盛り付けや食器ふき等は、利用者と職員が助け合っています。毎年、味噌作りもしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分補給の目安は計画の中に入っており、不足する場合は食事形態や嗜好に配慮し、食事回数を変更するなど工夫している。夏季や冬季は時に脱水に留意もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に応じたサポート方法はセルフケア計画の中で示されており、半年に一回は専門歯科医師による口腔ケアチェックや指導を頂いている。又、隣に歯科医があり歯痛等の緊急な時は通院している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はできるだけオムツに頼らずトイレでの気持ちの良い排泄が出来るように、排泄のサインをつかみ、適宜、又、定時のトイレ誘導などに努め、失敗が少ないように努めている。	トイレでの排泄を基本としています。重度になりリハビリパンツを使う利用者にも、さりげなく声をかけてトイレ誘導を行い、失敗が少ないように支援しています。居室でポータブルトイレを使う利用者もありますが、他人に見えないよう、家具や家具調のつい立てを置き工夫しています。ポータブルトイレを他人から見えなくしたことで、不潔行為がなくなったケースがあります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は水分・運動・セルロースの多い食事が関与しており、一人々の飲水の見直しなどを定めている。又、季節や発熱によって不感蒸泄にも配慮し、水分補給には特に気配りしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体を清潔にするだけでなく、入浴は心のホリデーであり、季節を感じさせる柚子湯や菖蒲湯など、又、好みの入浴剤等の工夫で良いコミュニケーションと共にリラックスできる場面を提供している。	基本的には週3回の入浴ですが、本人の希望があれば好きな時間、曜日に入浴することが可能です。入浴を拒否される方には、説得より納得してもらった上で入浴してもらえよう働きかけています。脱衣場の壁の色にも入浴を楽しんでもらう工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設全体が有機的でリラックスできる場所も多く、居室も家庭的な雰囲気。特に緊張感もなく、ベッドではいつでも休息できる環境が整えられている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の薬ボックスへの薬のセットは薬剤師に依頼している。服薬事は、顔・名前を2人で確認している。薬の知識についても副作用や留意点に至るまで学習を提供し、その冊子はいつでも見ることが出来るよう定位置に備えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活リハビリとして料理や配膳等の役割もあるが、自治会やクラブ活動等もあり、自己実現としての発表会の場や機会も生きがい支援として行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事は“自治会”により、利用者さんの希望や要望を聞き、車で片道1時間前後を目途に、出来るだけ要望に沿えるよう、集団や個別での対応に努めている。	利用者自治会の希望や要望を聞き、外出行事に取り組んでいます。「ひより号」のバスで、海や花見、夜のホタル観賞など出かけました。日常的には、犬の散歩や買い物に出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出等ではドライブインでのお土産を買う等の個別の買い物もサポートをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	最近では携帯電話を持つ人もいるが、手紙、礼状の代筆や年賀状書き、又、家族からの電話の取次ぎも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切にし、ホーム全体が醸し出すレトロな雰囲気を大切にしている。音楽や香り、花や緑、熱帯魚や犬などのふれあいもリラックス感がある。又、施設内の表示などは出来るだけ短く、わかりやすい言葉を使い、混乱を招く事のない様に色分けや目印の工夫もしている。	ホーム全体は昭和のレトロな雰囲気が醸し出されています。古い家を利用しているため、利用者や家族からは、昔の生活スタイルのままで暮らせることに安心感があります。家族からも感謝されています。季節の花を飾り季節感も味わえます。ホーム内には利用者が一人になれるような空間を設けています。利用者自治会から出た「福祉用具に囲まれて生活したくない」という願いに応え、手すりを竹の手すりに換える等、環境作りも生活者の目線・立場を大切にしています。清掃は専任職員を配置し、事業所内は清潔を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりとしたスペースがあり、談話室や中庭でくつろいだり廊下でも長椅子や対面椅子などを用意して居場所作りを工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の住みなれた部屋をできるだけ再現できるように使い慣れた家具等も持ち込んで頂く等の工夫をしている。	利用者は使い慣れたタンス、椅子等の家具を持ち込んで自分らしい部屋作りをし、心地よく過ごせる居室となっています。部屋全体を照らす純和風の照明器具は、居室に落ち着きを感じさせています。ポータブルトイレを使用する利用者については、プライバシーに配慮した置き場所、工夫したブラインダーの設置等で安心感があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の表示はわかりやすく、言葉のセンテンスを少なくしている。色の工夫やデザインを活かした手すり等で、さりげない中にもわかりやすさを工夫している。		